



兵庫教育大学大学院同窓会

和歌山県支部 会報

発行

兵庫教育大学
大学院同窓会
和歌山県支部

和歌山城

目次	支部長 御挨拶	-----	1
	研究報告 大前泰彦先生 (生徒指導コース第14期生)	-----	2
	事務局よりおしらせ	-----	2

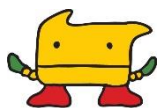
御挨拶 兵庫教育大学大学院同窓会和歌山県支部 支部長 西端幸信

コロナ禍お見舞い申し上げます。

和歌山県は小康状態を保っているとはいえ、オリンピック前後には東京を中心に感染者がまた激増する可能性が高いとの報道に、変異を続けて蔓延するコロナウイルスの猛威に恐怖感さえ覚えます。この会報が届くころはどのような状態になっているか大変不安です。

会員の皆さまにはいかがお過ごしでしょうか。私は、母校兵庫教育大学には非常勤講師としてお世話になっていますが、感染予防のため昨年度からネットを介した遠隔授業が中心となり、私の担当は大講義室で大人数での講義であることからzoom等を活用しても効果が期待できないため、学生にはできるだけビジュアルなパワポ資料と文字資料を提示してオンデマンド受講し、毎回レポートを提出していただきフィードバックコメントを返すという通信教育のような方法をとらざるを得ない状況です。一日も早くコロナを制圧し、講義室で学生が元気にワークに取り組む日常を取り戻したいものです。

本支部総会も昨年度に続き、今年度も資料を送付させていただいてご検討を願う形となり残念ですが、来年度こそは同窓生が集い、意義ある研修会や総会を実施できるよう、役員一同諸準備に力を注いでいく所存です。会員の皆様におかれましては研修と親睦を旨とする同窓会支部の活動にご理解とご協力をどうかよろしくお願い申し上げます。



学校教育を変えなければ日本は滅ぶ？

大前泰彦（生徒指導コース第14期生）



私は現在、①病院 ②大学および専門学校での仕事に加え、③カウンセラーとしても収入を得ています。現在まで、著書（共著）3冊、学術論文14編、翻訳書7冊、学会発表31回ですが、出版社より新たな翻訳書と著書を依頼され、査読論文も2編執筆中です。ここ数年の関心事について、以下に記述します。

<教員は専門職か？ 専門家としてのキャリア形成ができているか？>

文部科学省は教員を専門職としてとらえていますが、実態はそうでしょうか？

先日、ある退職教員に尋ねました。「全員100点を目指したことはあるか？」と。彼は「ない」「基礎ができて応用問題ができない子がいるからムリ」と答えましたので、「それを克服させる支援法はあるか？」と問いますと、「それができたら苦労しない。応用問題をたくさんやらせるくらいだな」と。

また、「地域の文化行事などで教育講演できる退職教員はいるのだろうか？」との問いには、「専門家だから皆できるだろう。やらないだけだ」とも言っていました。驚きを隠せませんでした。彼のような元教員は例外かもしれませんが、皆さんならば、「専門家」としていかに返答されますか？

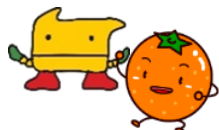
近頃、教員への批判を聞くことが多くなってきました。①プライドが高く接しにくい ②思ったことをそのまま言う ③相手に合わせた雑談ができない ④経験を積んでも幼稚な感じである ⑤多面的に考えられず即座に決めつける ⑥知ったかぶりをする などです。

教員は大学での養成に問題があり、また、長年現場にいてもプロとしてのキャリア形成ができにくい状態に置かれています。1年間同じ人達とのコミュニケーションの毎日、採用されてすぐに一人で仕事（授業、部活等）をするような職業は他にはあるでしょうか？ しかも、新任なのに一人前の顔をする者がいる職場は、学校以外では私には見当たりません。

「子どもたちが、いじめなどなく学習意欲を持った毎日をおくっているだろうか？」「学校での自己有用感を育てているだろうか？」と日々思いめぐらし、支援方法を自ら学び続け、リーダーシップを発揮している校長は県下にどれくらいいるのでしょうか？

エビデンス志向の実践研究に価値がおかれる職場になっていけば変革が可能かもしれませんが、養成、採用、任用、昇任をはじめとして諸課題が山積であると思います。他国に大きく後れを取っており楽観できない状況だと思います。

佐藤学氏が「あと10年以内に教育を変えなければ日本は滅ぶ」と警告しましたが、あと残すところ5年となりました。



★事務局よりおしらせ★

「支部会報」に関するご意見、ご感想、掲載してほしい内容などについて、QRコードを読み取り、メールでお知らせください。

皆さまからの、ご投稿もお待ちしています。d18254h@hyogo-u.ac.jp

